

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 3 年 3 月 日

公表:令和 3 年 3 月 日

事業所名 多機能型事業所 ゆるり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○14	2	他の空いている部屋も活用しています。テラスの活用。	雨天時は外へも出れず、狭い空間になってしまう為、クールダウンが必要な場合など、配慮が必要と考えられ、今後も検討していきたいと思えます。
	2	職員の配置数は適切である	○17			支援に必要な人員は確保できるように配置しています。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○16		視覚でも分かるように表示を付けています。	写真や絵カードを使い、
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○15	2	消毒の徹底を行ない、換気も定期的に行なっています。	支援後に使用した玩具や絵本などアルコール消毒をしています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○13	2		個別ケース会議を実施し、職員間で情報共有しています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○14	1		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○14			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	非該当	8		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○12	4	年12回以上計画に沿って実施しています。	コロナ禍で外部への研修に出れず、外部研修はZoomを利用した研修が殆どです。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○15		契約時にアセスメントを行ない、計画を作成。	モニタリングに十分な時間を取り、納得できるまで話し合い、計画を作成していきます。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○14			個別ファイルを常時共有して、不明点など具体的な支援内容を確認して支援にあたっています。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○14			個別ファイルを常時共有して、不明点など具体的な支援内容を確認して支援にあたっています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○17			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○14	1	意見を出し合い工夫をしています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	1	創作活動等力入れています。	夏は水遊び、冬は風揚げなど季節に合わせた活動をしています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○16			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○11	2		契約時に行ったアセスメントを基に計画を作成し、職員で情報共有し確認を行なっています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○11	3		支援以外の空いた時間を活用し、児童の様子や今後の支援の方向性など話し合うようにしています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○16			日々細かい成長点を見つけ、次回の支援につなげるよう記録している。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○15		定期的に行なっています。	計画が必要な場合は常に見直しを検討しています。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○14			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○14	1		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○15	1	必要に応じて訪問看護師と連携し、情報共有しています。	医師の指示書の元に体制を整え、必要な時には関わりのある訪問や医療機関と情報共有するようにしています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○13	1		医師の指示書の元に体制を整え、必要な時には関わりのある訪問や医療機関と情報共有するようにしています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○8	4		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○2	5	非該当	事例がなくまだ行ったことはありません。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○8	7		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○1	11		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○7	6		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○17		連絡帳を活用し、ご家族さまとコミュニケーションを図っています。	連絡帳を活用し、支援記録に詳細を記載、ご家族さまからのコメントにも必ず目を通しています。送迎時には家庭での様子を伺っています。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○7	4			
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○16			契約時に書類による説明を行なっています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○15			面談の機会を設け、行なっています。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○16		送迎時などを活用し、伺うようにしています。	送迎時だけでは中々相談に応じることが出来ないのが現状であるため、面談の際に確認をしています。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	10		
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○15			相談などの申し入れがあった場合は、職員間でも話し合いより良い支援が早急に出来るよう対応しています。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○16			毎月事業所の機関誌を発行しています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○16			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○15			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○6	8		コロナ渦で実行できていない。今後どのように行なっていけるかを検討していきます。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○16			各対策委員会を設置していますが、発生を想定した訓練は事業所内だけで、保護者向けには実施されていない為、検討を進めていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○13	2	年間行事により、年2回以上実施しています。	年間行事で訓練日を記載し、保護者の方へも周知頂けるようにしています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○14	1		服薬が必要な児童がいません。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○13			事前に食事アセスメントを行ない、対応しています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○16		常に意識し、事例は職員間で共有して周知しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○14	2		年間研修予定に組み込み
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している				

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。